

特273-767



1200501128679

3

160

767

小學訓導心得

明治十年九月編成

群馬縣



始



特273
767

小學訓導心得

人ノ善惡賢愚ハ多クハ幼時ヨリノ習慣ニ
 因ルモノナレハ小學ノ教師タルモノハ唯
 カ學科ヲ授クルノミヲ以テ其ノ職ヲ竭ス
 モノトセス躬ヲ修メ行ヲ正シ一舉一措
 輕忽ニセズ片言隻行模範タル可ク生徒ヲ
 ノ知ラズ識ラズ之レヲ薰陶セラレ以テ善
 良ノ人ト爲ラシムルヲ要ス其ノ之ヲ遇ス
 ルヤ務メテ寬嚴中ヲ得優柔ニ流レ格猛ニ
 陷ル等ノ弊アル可ラズ依テ平生服膺スベ

書庫

書庫

壹

キノ件若干條ヲ掲グルト左ノ如シ

第一條

教方ハ本縣定ムル所ノ教則及授業法ニ從
テ可シ

第二條

幼童ヲ教導スルニ密ニ過グレバ真理ヲ忘
テ未說ニ流レ簡ニ過グレバ疎漏ニ陷ル故
ニ教師タル者ハ簡密能ク其ノ中ヲ得ザル
可カラズ

第三條

生徒質問スル夏アラバ曖昧ノ答ヲ爲ス可
カラズ其ノ疑團ヲ免カレザル件ハ退テ諸
書ヲ參考シ或ハ之ヲ先輩ニ訂シ確實明瞭
ニ答フ可シ

第四條

児童ヲ導クニ自ラ男女ノ別アリ男ハ寛厚
ニシテ剛ナラシメ女ハ温良ニシテ順ナラ
シム故ニ男兒ニハ教科書或ハ他書ニ就キ
古今義士仁人ノ事蹟ヲ撮説シ女子ニハ賢
女節婦ノ言行ヲ説話ス可シ

但古來義士節婦ト稱スル者勤モスレバ
慷慨激烈ニ過グルモノアリ故ニ現今適
切ノ事蹟ヲ選ブハ教師ノ最注意スベキ
所ナリ

第五條

兒童ノ性質ヲ識別スルハ最モ緊要ノトナ
レバ動作遊戯ノ間ニ於テ之ヲ視察シ之ヲ
矯正シ之ヲ獎勵ス可シ

第六條

記憶乏シキ者及訓誨ヲ守ラザル者ハ懇ニ

之ヲ教諭シ決シテ暴剽ノ譴責ヲ爲スベカ
ラズ頑鈍ノ童兒ヲノ豁然感悟セシムルハ
教員ノ最モ務ム可キ任トス

第七條

生徒ヲ遇スル一般ニ公平ナル可シ決シテ
彼ニ厚ク此ニ薄キ等ノ弊アル可カラカズ

第八條

生徒過失アルハ左ノ三項ニ據リ其輕重
ヲ斟酌ノ處分ス可シ其則タルヤ固ヨリ改
良ヲ俟ツ所以ニシテ已ムヲ得ザルニ出ル

方法ナレバ容易ニ之ヲ處ス可ラスナレバ可及的
説諭ヲ加ヘ自ラ悔悟セシム可シ

第一 訓誨

生徒ヲシテ教場ニ整列セシメ犯則ノ
者ヲ呼出シ再犯ナキ様懇ニ諭シ満室
ノ生徒ヲメ之ヲ傍聽セシム

第二 誨懲

授業中三十分若クハ二十分時間其坐
席或ハ一隅ニ直立セシメ課業ヲ廢セシム可ラス
課業畢レバ訓誨ヲ加ヘテ放免ス

第三 警誡

退校時間ニ後レシムルト三十分ヨリ
少カラズ一時ヨリ多カラザル可シ而
メ其間小學生徒心得或ハ其犯件ヲ警
誡スベキ簡易ノ脩身談ヲ聽カシメ其
ノ非ヲ悔悟セシム

第九條

生徒若シ校則第十八條ニ掲ル如キ所業ア
ラバ其尊屬ノ親ヲメ説諭セシメ尚之ヲ守
ラザル者ハ同僚及學區取締ト合議シ連署

ヲ以テ其狀ヲ具陳シ許可ヲ得テ後處分ス可シ

第十條

務テ生徒ノ健康ニ注意シ時々教場ノ窓戸ヲ開閉シ寒暖其度ニ適セシム可シ又体操遊戯ヲ爲ス片ハ之ヲ監護シ粗暴ヲ制シ傷害ヲ防グ可シ

第十一條

兒童體操場ニ出テ遊戯ヲ爲ストキハ其ノ具ニ就テ其ノ理ヲ諭示ス可シ

鞞ニ就テ反動ノ理ヲ説

キ輪ニ依テ運轉ノ理ヲ論ス等 或ハ草花木葉金石貝虫等類ニ觸レ物ニ應シ簡易ニ其ノ理由ヲ解説ス可シ

第十二條

生徒顔面手足等ヲ汚ス者アレバ直チニ之ヲ洗淨セシム可シ

第十三條

教鞭ハ掛圖ヲ示シ字畫ヲ指スノ具ナレバ生徒ヲ指揮シ或ハ警筆ス可カラズ

第十四條

使丁ヲ備フル學校ハ勿論若シ巳ヲ得ズシ
テ生徒ヲ以テ交番灑掃セシムルトモ十二
歳以下ノ兒童ヲシテ汲水ノ用ヲナサシム
可ラズ

第十五條

學生ノ進歩ヲノ一科ニ偏暢セシム可ラズ

第十六條

月給ノ外謝儀贈物等ヲ受ベカラズ

但夜學等ヲ開キ其ノ給料ヲ受ルハ此例
ニ非ズ

第十七條

生徒毎日ノ勤惰及學區取締ノ巡回保護役
出席ノ月日等ヲ詳記シ第五課并學吏管掌
ノ吏員巡回ノ時其ノ檢閲ヲ受ク可シ

但小學校則第五号ノ雛形ニ照準ス可シ
第十八條

教員ハ便宜ヲ以テ五六或ハ七八校ヲ聯合
シ會日ヲ定メ會則ヲ建テ教科書并授業法
等ヲ研究シ專ラ學業ノ進歩ニ注意ス可シ
議事若シ其ノ當ヲ得ザルニアラバ之レヲ

等閑ニ付セズ必ズ師範學校へ質問ス可シ
但教場ノ都合ニ因リ自ラ出頭シ能ハザ
ル片ハ書牘ヲ以テ質問スルモ妨ナシ又
談日ハ行厨ノ外猥リニ飲食ス可ラザル
ハ勿論決シテ暴論雜話ニ亘ル可ラズ

三錢五厘

小學訓導心得

終

